

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 高山工業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月2日(水) 13:15~15:15
- 3 開催場所 高山工業高等学校 会議室
- 4 参加者  
委員  
桑原 博章 育友会会長  
熊崎 秀一 千島町町内会副会長  
中野谷 康司 高山市教育委員会 教育長  
中田 和子 高山商工会議所 女性会会長  
下垣内たか子 高山市立日枝中学校校長 (欠席)  
多田 仁 高山市立花里小学校校長 (欠席)  
岡田 明子 飛騨木工連合会理事 (欠席)  
  
学校側  
秋場 毅 校長  
田口 稔 教頭  
蒲 正明 事務長  
大坪 博孝 教務主任  
高橋 佑介 生徒指導主事  
谷口 精一 進路指導部員  
門前 雅人 工業部長

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 前期の諸活動報告と課題について

##### ○教務関係

- ・保護者等を対象としたアンケート結果
- ・基礎的、基本的な学力の定着と生徒の自主的な学習習慣の改善
- ・ICTの活用
- ・新型コロナウイルス感染防止
- ・公開授業や研究授業による指導力向上
- ・岐阜県道徳教育振興会議の研究指定校

##### ○生徒指導関係

- ・校外活動報告
- ・生徒指導の状況

##### ○進路指導委関係

- ・令和4年度進路状況

##### ○工業部関係

- ・「地域産業の担い手育成総合戦略事業」中長期インターンシップ

意見1：アンケート結果にも表れているように、工業高校の良さは就職がよいことや専門的な知識が学べることであり、そこが魅力になっている。

意見2：学習習慣の改善に力を入れており大変ありがたい。生徒のために時間をとって指導していることは大変だが続けてほしい。成果が得られている具体的な取組はどのようなものがあるか。

⇒入学したばかりの一年生で数学の習熟度が特に低い生徒に対して、基礎的、基本的な学力の定着を目指した「ステップアップ講座」という名称で放課後補習をしている。この学習活動を通して、その後、学習意欲が向上した生徒もいる。

意見3：生徒のスマートフォンの持ち込み状況とそれに伴う問題をどのように指導しているのか。

⇒朝のSHRから帰りのSHRまでは電源を切って鞆の中に入れることになっている。SNSをはじめスマートフォンに関する問題は多く発生している。社会ではスマートフォンはツールとして活用されていることから、使わせない指導ではなく正しい使い方を情報モラル講話や専門教科の授業を通して教えている。

意見4：コロナ禍で不登校が増加し問題になっている。不登校生徒の対応はどうなっているのか。また、不登校傾向の生徒の進路はどうなっているのか。

⇒授業に出席することと一定の評価があることの二つが単位修得の条件となっている。この条件が満たさなければ留年もあり得る。不登校の要因は様々な事が考えられる。家庭訪問や面談の中で、卒業する見通しができた生徒は、通常の生活に戻り就職や進学をしていく。学校に足が向かず欠席日数が増え原級留置になった場合は、私立の広域通信制高校に転学、あるいは休学して来年度通信制または定時制の高校に転学、さらに勉学が苦手な生徒は退学して働くこともある。私たちはその生徒に合った一番よい進路を一緒に考えている。場合によってはスクールカウンセラーやスクール相談員、さらにスクールソーシャルワーカーや医療機関などの外部機関と連携をとりながら支援をしている。

## (2) 地域連携による活力ある高校づくり推進事業について

- ・サテライトキャンパス「飛驒の匠工房」
- ・ロボットプログラミング競技会「STEAM in Takayama」
- ・デザイン思考ワークショップ
- ・技能里帰りプロジェクト
- ・広報活動（オープンキャンパスと一日入学）

意見1：コロナ禍で体を動かしたり声を出したりすることが少なくなっている中、様々な活動ができていることは大変よい。今後もできる範囲で学校行事をしてほしい。

意見2：昔から飛驒の匠は全国で活躍し、その技術は今に伝承され根付いている地域である。このような地域での学習活動は素晴らしいものだ。木工という全国に誇れる土壌で、人のために役立ちたいという心を育むためにも、これまで以上に地域に根ざした指導を続けてほしい。

意見3：「デザイン実践」の選択教科は大変魅力的である。学校の一つの売りとしてもよい。

### (3) その他

意見1：飛騨地区以外や県外からの入学者がどれくらいいるのか。

⇒県外募集を建築インテリア科で実施しており、毎年1名から2名の入学者がいる。  
飛騨地区以外では郡上などから毎年2~3名入学する。地区内外を問わず本校のアピールが少しずつ浸透している。

意見2：eスポーツについて部活動や選択授業として取り上げることは可能か

⇒eスポーツを選択授業や部活動に導入すれば、様々な生徒が入学する可能性がある。学校の活力を上げていくための一つの方策として、色々な意見を聞きながら今後の参考にする。

## 6 会議のまとめ

- ・第2回学校運営協議会では、前期の諸活動報告と課題について理解を得られた
- ・校則の見直しについて委員より承認が得られた
- ・地域連携による活力ある高校づくり推進事業の取組状況について賛同が得られた
- ・魅力ある学校にするために現状を維持しつつ、さらに選択教科や部活動など新しい観点からの方策を考えることが課題である